

経営学部 情報マネジメント学科 来春誕生

2021年度、経営学部情報マネジメント学科が新設される。4月に、文部科学省に設置を届け出た。石巻専修大学では、22年4月までを目標に学部・学科改組を含む教育課程の再編に取り組んでおり、新学科の設置はその一環。

経営学部は既存の経営学科と合わせて2学科体制となり、21年度から石巻専修大学は3学部8学科になる。新学科設置にあたって、尾池守学長、杉田博経営学部長と授業を担当する予定の2教員に話を聞いた。

石巻専修大学

石巻専修大学
広報係
☎986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717(直)

最新の情報は大学HPで。
QRコード

新学科に対する社会や地域にも大きな意味があり、地域の期待は大きいと考えます。通信インフラの整備により世界はリアルタイムでつながり、石巻にいては、情報を社会科学とながらも世界規模で情報して学びます。これは、の収集や発信を行うこと単にデータを収集・整理だけでなく、そこに社会科学の興味や価値を大学を目指す本学は、教育・研究を通じて、石巻地域が抱える課題にも向き合っていくべきです。地域が抱える課題にも向き合っていくべきです。地域が抱える課題にも向き合っていくべきです。

次の10年を見据えて



尾池 守学長

昨年、創立30周年を迎えた石巻専修大学は、次の10年に向けてさまざまな取り組みをスタートさせ、収集した情報やデータを自分なりに解釈してまいります。その一つ、伝えることができる人、個性をデータに基づいて、来年度4月の経営学部企業経営などの場面で適宜普及し、広く発信する情報マネジメント学科の切な判断を下し実行できること。これもまた新設です。「ソサエティの人を育てることを目標とした情報マネジメント学科5・0」の実現に向けて掲げています。情報やAIに対する社会的ニーズが高まるなか、メント学科ができること

情報やデータを利活用

杉田 博学部長



石巻専修大学の経営学部経営学科は東北の私立大学のなかで、最も古い歴史を有しています。この伝統ある学部に来年度4月、新学科「情報マネジメント学科」が誕生します。

経営の三要素である「ヒト、モノ、カネ」について総合的に学ぶ経営学科に対して、「情報、データ」の活用について学ぶ点が新学科の大きな特徴です。4年間の学修を通じて、社会で求められる経営と情報に関する知識を高いレベルで身につけることができ、デジタルネイティブの高校生の皆さんは、スマートフォンやタブレット端末を日常生活のなかで自由に扱うことができていると思います。そうした知識や技術をさらに深め、ビジネスの場面でも使いこなせるようになることが新学科のねらいです。

卒業生は「情報やデータに強い人」「データに基づき戦略を立て、それを実行できる人」として広く社会で活躍することが期待されます。「ソサエティ5・0」と呼ばれる新たな時代を迎えるにあたり、新学科の役割は大きいと考えています。

新しいビジネスを創造

工藤 周平教授



情報マネジメント学科は「経営の未来」について学ぶ科目です。データや情報通信技術を活用して新しいビジネスを創造する、その方法を学生や地域の方々と一緒に学ぶ拠点になることが期待されています。私は「情報通信技術の戦略的活用」をテーマに、企業が情報通信技術を活用することで、自社の経営戦略をいかに効果的に実行できるかについて研究しています。

三つの学びを体系的に

関口 駿輔准教授



大学での学びは家づくりの似ています。家を建てるための道具や材料に当たるのが「問題意識」、設計図が「仮説を立てるための考え方」、大工の技術が「データ分析」です。企業はより良い商品を安く提供する方法を、行政は限られた税収のなかで効率的にサービスを提供する方法を日々考えています。「どうすれば」という問題意識を持つことがすべての出発点であり、成長のための原動力になります。家の設計図が一つでないように、仮説を立てるための考え方も一つではありません。大学で学ぶ専門的な考え方に照らして問題意識を見つめると、自分なりの仮説を立てることができるでしょう。そしてデータ分析の手法を用いることで、仮説を科学的に証明し、問題解決のための提言につなげることができます。新学科では「問題意識」「仮説を立てるための考え方」「データ分析」の三つの学びを体系的に学修することができます。

合格率100%を達成

二級自動車整備士試験



講義を通して技術の習得に励む学生たち

本年を今年3月に卒業した理工学部機械工学科自動車工学コースの6人が、二級自動車整備士試験に合格した(4月7日結果発表)。3月下旬に仙台市内で行われた技能登録試験に挑んだ全員が合格を果たし、国家資格である二級自動車整備士の資格を取得。コースの開設以来、目標に掲げている「合格率100%」を5年ぶりに達成した。合格者は、小松大貴さん(宮城県仙台育英学園 誓也さん(福島県いわき市)、中村真生さん(岩手県北上翔南高)、酒井(宮城県石巻西高)、山田泰地さん(福島県私立石川高)、森脇丞さん(宮城県工業高)の6人。同コースは、二級自動車整備士養成施設として国土交通省の認定を受けている。そのため所定の科目を修了した学生は、卒業と同時にガソリンとディーゼル両方の二級自動車整備士試験の受験資格を得ることができる。6人は資格取得を目指し、昨年10月から3月まで学内で開かれた養成講習会を受講。270時間におよぶ講習を通じて、自動車整備の専門的な技術や知識を身につけた。指導を担当した川島純一教授は、新型コロナウイルスの影響があるなか、卒業式の直前まで勉強に励んだ6人をねぎらっている。

温州大学(中国・浙江省)からの交換留学生として昨年9月から経営学部で学んでいた祁鑫鏗さん(マスコ)から本学に、マスコ300枚が届けられた。2月上旬に帰国して現在中国で暮らす祁鑫鏗さんは、日本でマスクが入手困難な状況にあることを知り、石巻滞在中のお礼として4月に寄贈した。マスクは今後、学生や教職員の感染症予防に役立っている。

基礎の理解が応用につながる

理工学部機械工学科 梅山 光広 教授

UMEYAMA MITSUHIRO

研究室探訪

自動車は、エンジンとモーターを組み合わせたハイブリッド車、環境にやさしい水素を使った燃料電池車へと進化を続けています。私は、30年間、トヨタ自動車で「ハイブリッド車・プリウス」をはじめとしたさまざまな車の開発に携わってきました。自動車工学や機械力学などの専門分野の知識だけでなく、開発者としての経験も伝えていきたいと考えています。

例えば、「燃料電池車・ミライ」の開発の話です。「ミライ」の燃料は水素で、水素を空気中の酸素と反応させて電気を起こすのですが、その結果、大量の水がで、排気管から水が噴き出し、後ろの車にかかるという問題が起きました。仲間とさんさん議論して解決案を模索。排気管の形をジェットノズル型にし、排気管の方向を下向きに変更することで、対応することができました。こういった苦労が、逆に良い思い出になっています。

車はこれからもどんどん進化していきます。今後は「街に合った乗り物」という視点が重要となります。つまり、街に求められ、安心して乗ることができる乗り物です。従来の自動車の構造を理解した上で、自動運転やAIの技術を取り入れた次世代モビリティ。そんな未来の乗り物を石巻で、学生の皆さんと一緒に研究していきたいと思っています。



「ミライ」の模型を手にする梅山教授